

自ら**備え**、共に**守る**

もしもの時は  
**今日**かもしれない

特集

# 防災

令和元年10月に発生した台風第19号で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

いつ発生するか分からない災害。今回の特集では、改めて、自らの身を守るための備えと、地域の人たちが相互に助け合うために取り組んだ内容について、紹介します。

もしもの時に、自分や大切な家族を守るために、何ができるのかを考えてみませんか。

☎危機管理課☎(632)2052

**自助**

自分と家族の安全は  
自分で守る  
(防災の基本)

**共助**

自主防災組織など  
地域住民が相互に  
助け合う

**公助**

消防・警察などの  
行政機関による  
防災活動

## 予想を超える自然災害

令和元年台風第19号は、日本各地で甚大な被害を引き起こしました。本市では、1580件の住家・非住家被害(令和元年12月9日時点)が発生し、今でも生活の再建に取り組んでいる人がいます。

地震や台風、洪水などの自然災害の発生数は年々増加しているとともに、大規模化する傾向にあります。

## 経験に基づく「自助」と「共助」を

今回の災害の経験を踏まえ、いつ起こるか分からない自然災害への準備と心構えが必要です。

災害の被害を最小限に抑えるための取り組みには、「自助」「共助」「公助」という考え方がありますが、防災の基本は「自助」です。

自然災害の発生時にも慌てず、的確な対応ができるよう、もしもの時の避難行動について、家族で確認しておくことが大切です。その上でさらに「共助」に取り組むことで、自分と家族以外の人や地域など、多くの人命を守ることができます。

もしもの時の準備

# 災害に備える

いざという時に慌てないように、避難所や避難行動の確認や非常時持出品の準備などをしておきましょう。

- わが家の防災マニュアルを確認 (10 ページ参照)
- ▼非常持出品の準備。
- ▼停電、断水への備え。
- 情報の入手手段の確保 (12 ページ参照)
- ▼テレビ、ラジオ、防災情報メール。
- ハザードマップの確認 (13 ページ参照)
- ▼浸水想定区域などの確認。
- ▼アンダーパス(周りより低く冠水しやすい場所)など、危険箇所の確認。
- ▼避難所・避難経路の確認。
- 家の周りの保全
- ▼側溝、排水溝、水路の清掃など。

警戒レベル4で速やかに避難を！

ID 1020787

## 警戒レベルの5段階

風水害の際は、浸水想定区域の外に出ることが重要です。逃げ遅れないように、早めに行動してください。また、危険ですので、河川や水路、田んぼなどの様子を見に行かないでください。

警戒レベル	取るべき行動	避難情報など <small>警戒レベル1・2は気象庁が発表 警戒レベル3~5は市町が発令</small>	警戒レベル相当情報 <small>国土交通省・気象庁・県が発表</small>
警戒レベル1	<b>災害の心構えを高める</b> ▼テレビやラジオなどで最新の気象情報を確認 ▼非常持出品の点検 など	早期注意情報	
警戒レベル2	<b>避難行動を確認</b> ▼避難所や避難経路を再確認 ▼ハザードマップで危険箇所の再確認 など	洪水注意報 大雨注意報	
警戒レベル3	<b>高齢者 障がい者 乳幼児</b> などと その支援者は避難、他の住民は準備	避難準備・ 高齢者等避難開始	▼大雨警報 ▼洪水警報 ▼氾濫警戒情報など
警戒レベル4	<b>全員避難</b>	避難勧告 避難指示 (緊急)	▼氾濫危険情報 ▼土砂災害警戒情報 など
警戒レベル5 <small>すでに災害が発生している状況</small>	<b>命を守るための 最善の行動を取る</b>	災害発生情報	▼氾濫発生情報 ▼大雨特別警報など

### 避難勧告・指示や

発令時に取るべき行動などを知っている人は県民の約3割

今年度の県政世論調査によると、県民の約7割が自宅近くの避難所と安全な避難経路について知っていました。避難勧告・指示などの意味や、発令された際に取るべき行動について知っている人は、約3割でした。

全国的に大規模災害が相次ぐ中、本市でも自然災害の発生段階に応じて、避難勧告・指示などを発令しています。しかし、実際にどのような行動をとれば良いのか分からないという人も多いのではないのでしょうか(上の図参照)。

台風第19号の際にも、「どこに避難すればいいですか」「最寄りの避難所が開いていません」という問い合わせが多く寄せられました。

今回は、日ごろの準備や心構えに加え、台風第19号を乗り越えるために、地域が一体となって取り組んだ事例も紹介します。

家族や自身の身に危険が迫った時に、どのような行動を取れば良いのか、この機会に改めて考えてみませんか。

# 安心できる地域づくり



東地区自主防災会  
事務局長 薄井 邦紘さん

東地区連合自治会  
会長 小島 弘義さん

東鳩田六区自治会  
会長 北村 正さん

東地域は、田川に隣接する地域で、今回の災害では多くの世帯が床上浸水するなど、大きな被害を受けた地域の一つです。しかし、地域の連携や日ごろの活動により、住民同士が声を掛け合うなど、迅速な避難対応ができました。それはなぜか、地域でできる共助の取り組みについてお話を伺いました。

「台風第19号の際には、地域としてどのような対応をしましたか。」

田川に近い東地域コミュニティセンター周辺は、洪水ハザードマップで浸水想定区域内にあります。

今回は、台風接近とともに雨量が増し、田川の水位も上昇してきたので、もしかしたら溢水するかもしれないと考えていました。

市の避難指示が出た後は、多くの方が浸水想定区域外の昭和小学校へ避難をしましたが、自力で避難をするのが難しい、高齢者や障がいがある人(要配慮者)などは、地域で協力して昭和小学校まで車で搬送しました。

「地域の公共施設へ避難してきた人への対応を教えてください。」

今回、東地域コミュニティセンターにも30人ほどが避難してきましたが、浸水想定区域内で避難所にはならないことを伝え、やはり昭和小学校まで車で移送しまし

た。

災害時には、公共施設であれば、どこでも避難所になると思っ  
ている人もいますが、水害の場合、公共施設自体が浸水想定区域内にある場合は避難所にならず、災害の発生状況に応じて段階的に開設される場合があります。地域性を理解し、災害が起こる前にきちんと、いくつかの避難所を把握しておくことが大切です。

「迅速で的確な対応がとれたのはなぜですか。」

東地域では日ごろから、地域への声掛けや定期的な研修会を開催し、災害に関する周知啓発に取り組んでいます。今回の台風が来る3週間ほど前にも洪水ハザードマップを活用した研修会を実施し、約100人が参加しました。

また、防災訓練も定期的に行っています。昨年は約300人が参加し、小中学生も50人ほど来ました。家庭内でも、災害時にはどんな対応をとるか、連絡がとれない

**Q** 早めに避難したい。最寄りの避難所が開いていない場合はどうすればいいの? **ID 1003235**

「わが家の防災マニュアル」(各図・画)に置いてある他、市(冊)でも閲覧可)を活用し、日ごろから複数の避難場所を確認しておきましょう。また、安全な立地にある家族や友人の家に避難させてもらうことも効果的です。



### その他の質問

Q.避難所にペットと避難したい場合は?

ペットとの同行避難の際は、ケージやキャリーバッグ、ペットフードなどを必ずお持ちください。

## 令和元年台風第19号で多かった質問にお答えします

よくある

# Q&A

災害に備え  
今日からできる

**自助**

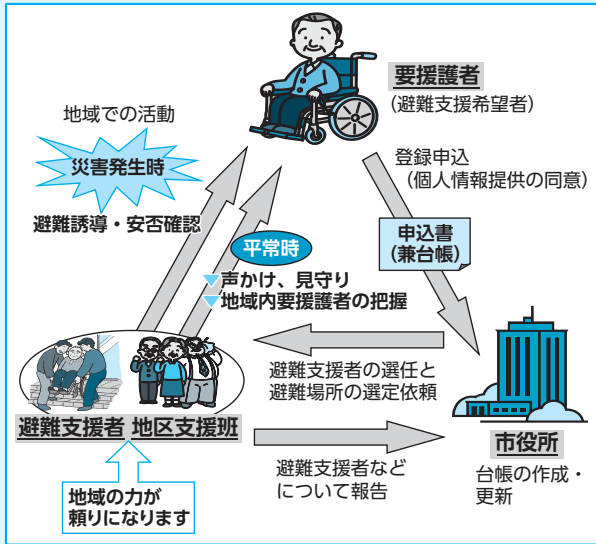
ID 1003245

## 自力避難が困難な人を 地域ぐるみで助け合う仕組み 災害時要援護者支援制度

避難支援を希望する（登録制）要援護者に対し、日ごろから声掛け見守り活動を行うとともに、あらかじめ地域で支援者や避難場所を決めておき、災害発生時に、避難支援者が避難誘導などを行います（下の図参照）。

■対象 在宅で生活しているおおむね65歳以上の高齢者や障がい者などのうち、災害の発生時に自力での避難が困難で、避難支援を希望する人（要援護者）。

- ▼要介護3以上の高齢者。
- ▼ひとり暮らし高齢者等安心ネットワーク事業の見守り対象者。
- ▼身体障がい者手帳1・2級所持者。
- ▼療育手帳A・A1・A2所持者。
- ▼精神障がい保健福祉手帳1級所持者。
- ▼障がい者福祉サービスを受けている難病患者など。



■申込方法 各申込先に置いてある申込書（市HPからも取り出し可）に必要な事項を書き、直接または送付で、〒320-8540市役所保健福祉総務課（市役所2階）☎(632)2919、〒320-8540市役所高齢福祉課（市役所2階）☎(632)2356、〒320-8540市役所障がい福祉課（市役所1階）☎(632)2673へ。



東地域コミュニティセンターでは、災害に備え、さまざまな防災訓練を行っています。  
1アトラクション 2応急手当訓練 3焼き出し訓練 4ダンボールベッドの体験。

30年ほど前までは、釜川が氾濫し、市内に多くの被害が出ていたことや、平成27年9月関東・東北豪雨では、この地域でも田川の水位が上昇し、避難勧告が発令されたことが教訓になっています。

「なぜ、それほど熱心に取り組んでいるのですか。」  
私たちも、田川が溢水した場合の対応について事前に話し合っていたために、速やかに対応することができました。

自然災害の猛威は、年々ひどくなっているように思われます。いざという時のために、皆さんが落ち着いて対応でき、互いに助け合えるよう、これからも周知啓発に取り組みでいきたいと思っています。

「今後の活動について教えてください。」  
浸水被害があった場合、どのような被害があるか、自分たちの住んでいる地域のどこが危険な場所か、実際に経験しているからこそ、地域の皆さんに浸水の危険性や事前対策の重要性を伝えることが大切だと思っています。



## 日ごろの備えとしてどんな物を準備しておけば安心なの？

ID 1003235

■非常持出品 必ず備えたいグッズ  
避難するときに持ち出す最低限の必需品。すぐに取り出せる場所に保管しましょう。

<input type="checkbox"/> <b>貴重品</b> 現金、預貯金通帳、印鑑、免許証、権利証書、健康保険証など。	<input type="checkbox"/> <b>非常食品</b> 缶詰、栄養補助食品など、調理せずにそのまま食べられる物。ミネラルウォーターなど。
<input type="checkbox"/> <b>携帯ラジオ</b> 予備電池は多めに用意。	<input type="checkbox"/> <b>懐中電灯</b> できれば1人に1個。予備電池も含む。
<input type="checkbox"/> <b>応急医薬品</b> ばんそうこう、傷薬、包帯、胃腸薬、解熱剤、目薬など。持病のある人は常備薬。	<input type="checkbox"/> <b>その他の生活用品</b> 上着、下着、靴下などの衣類、軍手、ティッシュペーパー、雨具、ビニール袋、生理用品、紙おむつなど。

■備蓄品 災害後の生活グッズ  
災害復旧までの数日間を自活するためのもの。少なくとも災害後3日分は準備しましょう。

<input type="checkbox"/> <b>飲料水</b> 飲料水は1人1日3ℓが目安。ペットボトルなどがよい。	<input type="checkbox"/> <b>非常食品</b> アルファ米、レトルトのごはん、インスタント食品、梅干し、チョコレートやアメなどの菓子類など。
<input type="checkbox"/> <b>燃料</b> 卓上こんろ、携帯こんろ、固形燃料など。ガスボンベの予備も忘れずに。	<input type="checkbox"/> <b>その他の生活用品</b> 生活用水（風呂・やかん・ポットなどに水を入れておく）。毛布、寝袋、使い捨てカイロ、ろうそく、新聞紙、布製ガムテープ、キッチン用ラップ、自転車など。



## ケース2 消防団に学ぶ **共助**

市消防団 第8分団  
分団長 福井 規悦さん

# 災害に強い地域づくり

消防団で分団長を務める福井さんも、今回の災害で自宅が床上浸水の被害を受けました。しかし、消防団員として、常日ごろからの活動や訓練で得た知識を生かし、今回の災害では住民への情報伝達や避難誘導などに貢献しました。

災害が起きた時の、いざというときの備えなどについて、心掛けていることや円滑な避難誘導ができた秘訣についてお話を伺いました。

—台風第19号の際には、消防団としてどのような対応をされたのですか。

田川の水位上昇が、目に見えて分かったので、避難指示が出された後は、すぐに消防団員で手分けして、周辺の家を訪問して避難所に避難するよう呼び掛けました。

その時は膝下辺りの水位でしたが、逃げ遅れた人がいないかを確認するため、再度1時間後に巡回をした時には、もう腰ほどの高さまで水位が上がっていました。

まだ灯りの点いている家を訪問しましたが、すでに避難所までの移動は危険だと分かっていたので、家の2階に上がる、垂直避難を呼びかけました。

—なぜ素早い対応がとれたのですか。

日ごろの訓練に加え、地域の情報を熟知しているためです。

特に、日常の生活や見回りをしているときなどは、高齢者や障がい者など、要配慮者が住んでい

る住居などに注視しています。

また、団員間のコミュニケーションを一番大切にしている団結力が強いので、いざという時にすぐに対応できますし、地域情報の共有化が図られているので、的確な対応がとれるのです。

—地域に密着したボランティアの活動とは。

日ごろから地域の人たちの自宅を訪問して、ハザードマップや防災マニュアル、防災ラジオ、避難所などの情報について、周知をしているので、自然にコミュニケーションもとれますし、消防団についても信頼していただけれます。

このため、今回の避難誘導では、地域の人たちもたくさん協力してくれました。みんなで助け合う気持ちがとてもうれしかったですし、本当に助かりました。

—今後、災害に備えどのような対応をすれば良いですか。

ゲリラ豪雨や台風などによる

台風第19号で多かった



災害時に、どのように情報を得ることができるの？

災害時には、テレビの「データ放送」や、緊急告知付き「防災ラジオ」、「防災情報メール」などで、避難情報や避難所開設情報などをお知らせします。

その他、市HPやツイッターなどでも随時、情報を発信します。

### 宇都宮市の情報発信方法



#### テレビ

災害時、とちぎテレビなどを視聴中に、リモコンのdボタンを押すと、データ放送で災害情報などを見ることができます。



#### 市ホームページ・ツイッター

災害が発生した場合には、随時、市HPやツイッターで気象情報や避難情報を発信します。



▲ツイッター登録はこちらから



#### ラジオ

レディオベリーやミヤラジオ、栃木放送などで、気象情報や避難情報などを放送します。防災ラジオもご活用ください(13ページ参照)。



#### 防災情報メール

☎ 1003249

事前登録をすれば、災害時の避難情報や避難所開設情報が自動で携帯やパソコンに送信されます。



▲登録はこちらから



地域を守る/  
消防団員を募集中

☎1021326



☎消防局総務課☎(625)5504

消防団員は、自分たちのまちは自分たちで守るという郷土愛護の精神に基づき、地域防災活動のリーダーとして活躍しています。

- ▼入団資格 市内在住の18歳以上で、心身ともに健康である人。
- ▼身分 非常勤特別職の地方公務員。
- ▼待遇 年額報酬、出動手当、公務災害補償、共済制度、退団報償金、被服の貸与など。
- ▼その他 消防団について、詳しくは、市☎をご覧ください。

ご利用ください出前講座

☎1002831

防災についての出前講座を開催しています。自治会やサークルなど少人数での申し込みも可能です。詳しくは、市☎をご覧ください。危機管理課☎(632)2052へ。

講座名	内容
宇都宮市の防災	災害に対する日頃の備えや避難方法などの講話
みんなで避難所作戦会議	災害時の避難所開設・運営を体験するワークショップ
地域のハザードマップ핑	災害時を予測し、避難経路など確認するワークショップ
マイタイムラインで避難の作戦づくり	災害状況に対応した自分の防災行動の計画を作るワークショップ

防災ラジオ購入補助制度

☎1019013

大規模な災害が発生したときや、発生する恐れがあるときに自動で電源が入り大音量で流れる、緊急告知付き防災ラジオの購入を補助します。

- ▼対象 携帯電話などを持たない、世帯全員(単身者は本人)が70歳以上の人または視覚・聴覚障がいのある人など。
- ▼その他 申込方法など、詳しくは、各☎・☎に置いてあるパンフレットまたは市☎をご覧ください。危機管理課☎(632)2052へ。



消防団ではさまざまな防災訓練や、消防団員募集の活動を行っています。1水防訓練2文化財火災消防訓練3市総合防災訓練4消防団員募集の広報活動。

雨量が、年々変わってきました。予想外の対応が必要になることもあるので、自分は大丈夫だと思わず、防災グッズの準備や避難場所の把握など、日ごろの準備や心構えが大切です。

—なぜ消防団に入ったのですか。

1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災がきっかけでした。テレビで被害の状況を見て、自分でも何かできるのではないかと、少しでも知識があれば、人助けができるのではないかと思っていたところ、ちょうど知り合いに誘われて入団しました。

—福井さんにとって消防団のやりがいは何ですか。

災害から地域の皆さんを守ることでできた時や、感謝していただいたときは、消防団という仕事のやりがいを感じます。

消防団員を25年務めています。が、災害現場には、全く同じ状況というものは存在しません。災害が発生した時を想定した日ごろの訓練や地域に密着した活動を怠ることなく、これからも、地域の人の安心・安全な生活のため、消防団の活動に努めていきたいと思えます。

自宅が浸水想定区域内なのか知りたい。

☎河川課☎(632)2682、農業企画課☎(632)2474

市では、台風や大雨などにより浸水被害が発生する恐れのある地域や被害の程度を予想し、市民の皆さんが速やかに避難できるよう、ハザードマップを作成しています。ハザードマップを活用し、被災時の危険レベルや避難場所を確認しましょう。詳しくは、河川課または農業企画課へお問い合わせください。

■ハザードマップの種類

- ▼洪水ハザードマップ。
- ▼土砂災害ハザードマップ。
- ▼農業用ため池ハザードマップ。



▲洪水・土砂災害ハザードマップ

☎1003241



▲農業用ため池ハザードマップ

☎1018908